

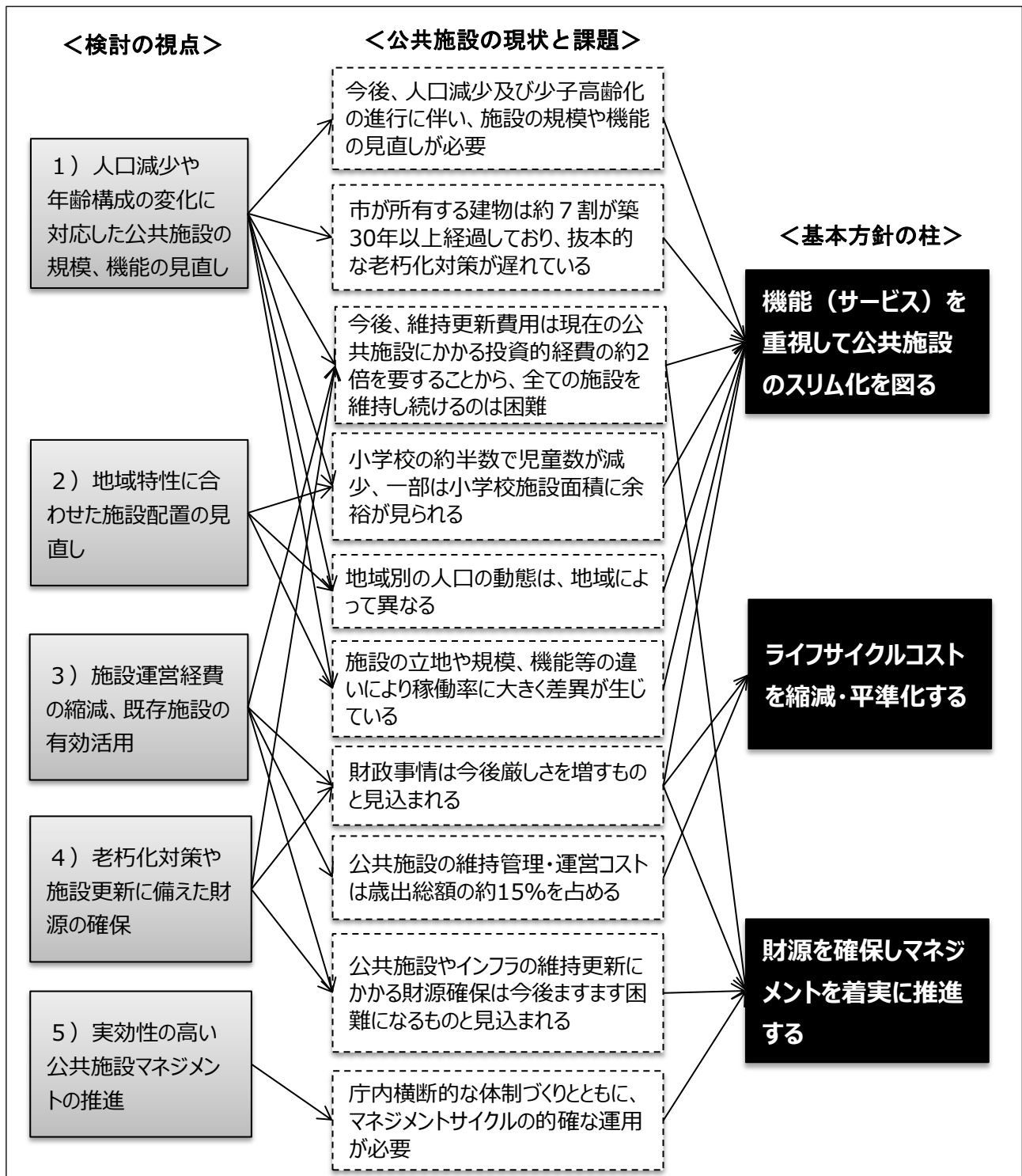
資料4

東久留米市
子ども・子育て会議
平成27年12月17日

第4回東久留米市公共施設のあり方に関する基本方針検討委員会
公共施設のあり方に関する基本方針検討基礎資料（抜粋）

第1章 公共施設のあり方に関する基本方針(3つの柱)

東久留米市が将来にわたって持続可能な市政運営を行っていくため、公共施設のあり方に関し留意すべき検討の視点に基づき、公共施設の現状と課題及び市民アンケート調査結果を踏まえながら、東久留米市が公共施設のあり方に関する基本方針を策定するにあたっての方向性を3つの柱にまとめました。



＜3つの基本方針の柱＞

- I 機能（サービス）を重視して公共施設のスリム化を図る
- II ライフサイクルコストを縮減・平準化する
- III 財源を確保しマネジメントを着実に推進する

この3つの基本方針の柱に関し、今後東久留米市において公共施設マネジメントを推進するにあたっての考え方を次のとおり示します。

I 機能（サービス）を重視して公共施設のスリム化を図る

＜推進にあたっての考え方＞

- 人口規模及び人口構造の変化が見込まれる中、公共サービスの需要と供給のバランスは変化していくものと考えられることから、将来のサービス需要を見極めた上で、公共施設に求められる規模・機能の見直しを図る必要があります。
- また、財政事情は今後厳しさを増すものと見込まれており、多様化する市民ニーズに応えていくためには、公による施設整備にとらわれることなく、必要とされる機能の補完方法について検討していく必要があります。求められるサービスを「だれが」、「どのように」、「どこで」提供するかなどの視点から、柔軟に対応していくことが求められます。
- さらに、今後の公共施設の維持更新に巨額な経費が必要になることが見込まれており、将来に大きな負担を残さないためには、公共施設の総量（床面積）そのものを削減していく必要があります。
- 地域によって人口の動態や、施設の利用状況に開きが見受けられる中、特定の設置目的に基づき整備され、目的別に利用対象者を限定した施設のあり方を見直すことにより、様々な目的を持ち、世代を超えた活用がなされ、将来的な人口動態の変化にも対応し得る施設へ再編されることを期待します。

II ライフサイクルコストを縮減・平準化する

＜推進にあたっての考え方＞

- 本市の財政事情は今後厳しさを増すものと見込まれており、公共施設の維持管理・運営にかかる経費の縮減に努めていく必要があります。そのためには、支出を減らすとともに、適正な収入を確保できるよう、維持管理・運営の手法や受益者負担の見直し等を図ることが望まれます。また、施設の稼働率を高めるなど、限られた資源で最も効果的・効率的なサービスを提供できるよう、有効活用に努めていくことを期待します。

Ⅲ 財源を確保しマネジメントを着実に推進する

<推進にあたっての考え方>

- 公共施設の維持更新には今後巨額な経費が必要となります。そうした中、本方針に沿って公共施設マネジメントを着実に実行するため、**必要な老朽化対策や施設更新に備えた、財源確保に努める**べきと考えます。
- 各所管が主体的に取り組みつつも、**継続性・実効力を持って推進**することができるよう、庁内横断的な体制を構築すべきであり、P (plan)、D (do)、C (check)、A (act)のマネジメントサイクルを構築し、持続性を持った公共施設の総合的かつ計画的な管理・運営の実現を目指していくことを期待します。